

1 地球環境問題への取り組み

温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2011年度は、電力使用量や工業用燃料の使用量減に伴うCO₂排出量の減少等により、温室効果ガス全体の排出量も減少しました。

温室効果ガス排出量 単位：千トン-CO₂

	2009年度	2010年度	2011年度
CO ₂ (二酸化炭素)*	118.7	119.5	113.9
CH ₄ (メタン)*	0.3	0.1	0.5
N ₂ O (一酸化二窒素)*	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	23.7	18.0	15.9
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	—	0.0	—
合計	142.6	137.5	130.3

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。
 ※：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料の燃焼に伴う排出量)を除く。

各種エネルギー使用量

	単位	2009年度		2010年度		2011年度			
		会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量		
電力	オフィス	百万kWh	38	28.3	42	29.6	41	25.9	
	工場等	百万kWh	32	208.6	33	213.4	33	198.3	
燃料	車両等	ガソリン等	千ℓ	41	6.7	44	6.6	43	6.6
		天然ガス	千m ³ N	1	0.3	1	0.3	1	0.1
	工業用*	冷暖房用	千ℓ	9	0.1	9	0.1	9	0.1
		A重油等	千ℓ	12	1.7	12	1.8	13	1.6
		LNG、LPG	千トン	7	1.8	7	1.8	7	1.4
熱	蒸気等	百万MJ	3	48.1	3	45.7	3	34.7	

※：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料)を除く。

詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) > 温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

私の環境アクション

2011年度 夏期の節電対策について

(株)電気ビルでは、当社が管理する九州電力本店(電気ビル本館)・支社社屋(電気ビル新館等)において、2011年6月から九州電力(株)地域共生本部(環境担当)とともに、建物内のお客さまのご協力を得て運用面での節電対策(空調設定温度の厳正管理、エレベーター間引き、照明管球間引き等の拡大・強化)を行い、対2010年度比16%減という大きな成果を得ることができました。

また、一般テナントビルにおいても、入居お客さまを対象として節電にご協力いただけるお客さまの空調・共益費を割り引くインセンティブ措置に対してご賛同をいただき、九州電力本店・支社社屋を含む電気ビル全社で、対2010年度比15%減を達成しました。この15%の削減は、従来から省エネ法に基づく省エネ対策(主に、機器の効率的な運用、省エネ機器への改修・更新等“お客さま室内環境への影響が少ない”手法)に取り組んできた当社にとって驚異的な数字であり、建物内お客さまのご協力の賜物と考えております。

2012年度も引き続き節電対策に取り組んでまいりますので、お客さまにはご不便をおかけし大変申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



電気ビル本館1階エレベーターホール 電気ビル(本館・新館)



(株)電気ビル 施設管理部
 副部長兼施設管理課長

こがとしお
古賀 登志雄



環境活動実績 (P48~P54) 集約の考え方

- 各環境活動実績は、集計対象のグループ会社のうち、実績の把握が可能なすべての会社(下表)の集計値です。
 (九州電力は含まない)

環境活動実績の集計対象

2009年度	グループ環境経営推進部会 全50社
2010年度	グループ環境経営推進部会 全52社
2011年度	グループ環境経営推進部会 全51社*

- 四捨五入の関係上、合計値及び百分率が合わないことがあります。
- 購入電力に伴うCO₂排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国から公表された「電気事業者別二酸化炭素排出係数」を用いて算出しています。

※：2012年1月、(株)キューキと九州計装エンジニアリング(株)が合併して、九電テクノシステムズ(株)を設立のため、2011年度実績は1社として集計。

用語集を
 ご覧ください

- ◎地球環境問題
- ◎温室効果ガス
- ◎エコドライブ
- ◎CH₄ (メタン)

- ◎N₂O (一酸化二窒素)
- ◎HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- ◎PFC (パーフルオロカーボン)
- ◎SF₆ (六フッ化硫黄)

- ◎天然ガス
- ◎LNG (液化天然ガス)
- ◎LPG (液化石油ガス)
- ◎地球温暖化対策の推進に関する法律

- ◎事業者別(二酸化炭素)排出係数

こんな事業やっています～エネルギー関連事業～

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入 グループ各社23社

国産エネルギーの有効活用の観点から、また、地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち14社が風力・太陽光・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、また、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、延べ23社が設備導入や開発に携わっています。

〔設備導入状況〕

項目	会社数	総設備容量
風力発電	3社 ^{※1}	64,390kW ^{※1}
太陽光発電	9社	1,240kW
バイオマス発電	1社 ^{※1}	11,350kW ^{※1}
廃棄物発電	1社	29,200kW
合計	14社	106,180kW



みやざきバイオマスリサイクル(株)
みやざきバイオマスリサイクル発電所

〔設備導入・開発に取り組む会社(青文字は設備導入会社)〕

風力発電(6社)^{※1}

- 西日本プラント工業(株)
 - 鷲尾岳風力発電(株)
 - 奄美大島風力発電(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- 長島ウインドヒル(株)

バイオマス発電(2社)^{※1}

- 西日本環境エネルギー(株)
- みやざきバイオマスリサイクル(株)

太陽光発電(12社)

- 西技工業(株)
- (株)九電工
- 九電テクノシステムズ(株)
- 光洋電器工業(株)^{※2}
- (株)キューヘン^{※2}
- 誠新産業(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
- (株)キューデン・エコソル
- ニシム電子工業(株)^{※2}
- (株)電気ビル
- (株)キューデン・グッドライフ東福岡
- 九電不動産(株)^{※2}

廃棄物発電(1社)

- (株)福岡クリーンエナジー

水力発電(1社)

- 西日本技術開発(株)

地熱発電(1社)

- 西日本環境エネルギー(株)



長島ウインドヒル(株) 長島風力発電所

※1:グループ会社の子会社を含む。 ※2:九州電力の研究設備として、グループ各社に設置。

電気自動車の充電インフラ設備の推進と省エネ対策への対応 九電テクノシステムズ(株)

九電テクノシステムズ(株)は、環境経営に配慮した社会インフラ事業の一つとして電気自動車用充電インフラ設備の開発・販売を進めています。政府が策定した「次世代自動車戦略2010」を背景として、チャデモ(CHA de MO)*協議会が定める急速充電方式「チャデモ・プロトコル」の認証取得や「クリーンエネルギー自動車等導入費補助事業」の補助対象機種認定を取得しました。また、充電インフラ設備に新たな付加価値を生みだす取組みとして、通信機能を搭載した普通充電スタンドの実証実験を福岡市と共同で行っています。これらの取組みを通じて低炭素社会の実現に向け、貢献しています。

また、2011年3月に発生した東日本大震災を機に、更なる節電に力を注ぎ、不使用機器の電源停止の徹底をはじめとして、下記の省エネ対策の実施について全社一丸となって取り組みました。

- 1 太陽光発電設備の設置(20kW)
- 2 蛍光灯のLED化(1,273本)
- 3 窓ガラスに遮熱フィルムを貼付
- 4 「ECOねっとシステム」による電力の見える化と空調機のデマンドコントロール制御(空調機制御容量263kW)

その結果、対2010年度比で年間電力使用量は16.8%削減、年間最大電力は14.9%削減できました。

※:協議会が標準化を進めている急速充電器の商標名。「CHArge de MOve=動く、進むためのチャージ」、[de=電気]、また「クルマの充電中にお茶でもどうですか」の3つの意味を含む。



急速充電器



太陽光発電設備

オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ一体となって取り組んでいます。

2011年度は、洗浄機械をフロンを使用しないものに更新(2010年度実施)したことにより、HCFCの排出量が減少しました。また、ハロンを使用しない設備への更新により、ハロン保有量も減少しました。

オゾン層破壊物質保有量等

単位:トン

		2009年度		2010年度		2011年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	4	15.5	4	15.5	4	15.5
	排出量		—		—		—
HCFC	保有量	26	54.7	26	53.5	25	53.1
	排出量		4.8		1.9		0.6
ハロン	保有量	6	12.4	6	12.3	6	9.4
	排出量		—		0.4		—

単位:ODPトン

オゾン層破壊物質排出量*	0.1	3.7	0.0
--------------	-----	-----	-----

※:各フロン類のオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

用語集を
ご覧ください

- 再生可能エネルギー
- 地球温暖化
- バイオマス
- 電気自動車

- 環境経営
- 低炭素社会
- ECOねっとシステム
- デマンドコントロール

- オゾン層
- フロン
- HCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)
- ハロン

- オゾン層破壊物質
- CFC(クロロフルオロカーボン)
- オゾン層破壊係数
- CFC-11(トリクロロフルオロメタン)